

## Q 鳩の飼育について

私が赴任してきたとき、この小学校にはクジャク鳩が30羽もいました。毎日掃除をしています、糞がたくさんあり、鳩が飛ぶと糞が舞い上がります。このままで良いのでしょうか？掃除が大変で困っています。

A

この2年くらい前に流行したのでしょうか？鳩、それもクジャク鳩が学校に何かのご褒美で配られた事例が見られます。ある先生から伺ったのは他の賞品は、バリケン、ガチョウなどやはり鳥だったそうです。水鳥は池も必要で、それも掃除など大変だからクジャク鳩にしたけれど、すぐに繁殖して目を離しているうちに30羽になったという話もあります。このような賞品はもらわない方が無なんです。断りづらかったら、学校獣医師に禁じられていると言って下さい。

どうしてもその鳩を飼いたかったら、まず学校獣医師に相談して、健康診断してもらいましょう。以前からいる鳥になにか病気を移さないとも限りません。

なお、賞品としての鳩をもらった学校は、その後の鳩の繁殖のすごさと、鳩用にはできていない狭い小屋の中を飛び交うことからくる不潔さ、などにどこも難儀しているようでした。ふつうの飼育舎は、飛ばないチャボを飼うのには便利で、子どもとの交流もできますが、飛ぶ鳩は子どもとの交流も難しいと思います。

実際に訪問してみた他の事例では、飼育舎の中で仕切られた半畳の個室にウサギが1匹ずつ入って、その個室の壁が切れる天井近くの暗闇部分に鳩が30羽近く飛んでいました。糞の量も多く、掃除が追いつかず 鳩が飛ぶとその飛沫が飛び散ります。また動物も鳩の糞が堆積した小屋の中での健康な生活できないのが本当です。それで、相談を受けた近くの学校獣医師が訪問し、鳩の糞便検査などをしましたが、虫などの心配はありませんでした。しかし、鳥の糞に病原があったとき、それが乾燥して舞い上がると身体に吸い込まれ、悪さする時があります。鳥インフルエンザの時も、それがあって掃除をするようにという指示がでました。特に鳩の糞には悪いカビが生えます。糞が舞い上がるような状態になっている場合には、中にはいる人はマスクを着用した方が良いでしょう。

しかし、忘れないで頂きたいのは、およそ人を含めて動物は皆、自分の糞と生活したくないと言うことです。小鳥でも糞をするとどこかに飛んで行ってしまいますね。つまり健康上も生活の質という面からも、鳥は糞と一緒に生活したくないと言えます。それで毎日の掃除が大事ですが、鳥が多すぎる飼育は無理があります。

まず、獣医師の訪問をお願いし、飼育の様子をみてもらってから、鳥の健康診断をしてもらいましょう。健康な鳩と病気のものとは分けて、必要なら治療などの対応をしながら、もらい手を探すことにします。

その時に保護者の支援を受ける事が大事です。子どもの心を育てるために学校で飼っている動物のことですので、これをひどい状態においておくのは子どもの気持ちを傷つけるし、処分はもっと傷つけるから、保護者も一緒に努力してもらうことが必要です。やさしい気持ちを子どもたちに見せてほしいと、保護者を説得してください。子どもにひどい処置を教えれば、一生そのような人生を教えることだし、一緒に動物を助けるように苦労することは、一生子どもに感謝されるでしょう。それは親が衰えた時、子どもが親の介護をどう考えるかに影響するほど、子どもの心にインパクトを与えます。

ある事例ではPTAが地元紙に事情を掲載してもらい手を探しました。また知り合いから鳩好きな方を探しました。また別の学校では、適正数を理解した学校が、一生懸命動物園などをお願いし、引き取り手を見つけました。その後飼育舎の改善もしましたが、掃除が楽になり、子どもと動物の良い交流ができているとのことでした。

結局、鳩を飼うならリンゴ箱、あるいは小さな靴箱くらいに、外から鳩が入る入り口（トラップ）をつけて、一つがだけを飼います。毎朝夕2回鳩を外にとばしますが、小屋を掃除して餌と水を整えると、鳩は餌を食べるために小屋に戻ってくるでしょう。朝と夕方の2回とばせるのが大変でも、掃除と餌やりは2回必要でしょう。そのために掃除がすぐに終わるように、小屋は小さい方がよいのですが、それが無理なら鳩は飼わない方が無難です。頑張ってもらい手を見つける方向に進めて下さい。そして子どもと交流のできる動物を1年生のために1クラスに1頭の数を大事にかけて頂けたらと思います。

なお、関連記事が全国学校飼育動物研究会の会議室の「鳩の飼育について」に掲載されていますので、ご参考になさってください。